

中 守 破 離



令和5年6月30日（金）第12号

くれくうしゅう ぎせいしゃ いれい こうきゅう へいわ きねん
呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日

呉空襲 1945年7月1日



1945年7月1日午後11時45分に警戒警報が発令され、その4分後、11時49分に空襲警報が呉地区に発令されました。こうして始まった呉空襲は、ひと晩で1869人の死者を出しました。2万2164戸の住宅が全焼全壊し、罹災者はおよそ12万5000人にのぼったと記録されています。

呉空襲で使用されたのは「焼夷弾」という爆弾でした。これは、爆発で破壊するのではなく、容器に油が入っていて、地面に落ちるとその油が飛び散り、周り一帯を焼きつくす爆弾です。つまり呉空襲では、爆破による被害ではなく、火災によって町が燃やされ、多くの人の命が奪われたのです。防空壕に避難していた人たちの犠牲も大きく、和庄地区一帯につくられていた大きな防空壕では、強い西風によって猛烈に煙が壕に吹き込み、壕内にひしめく人たちを窒息させ、550人が亡くなったといえます。

米軍の空爆は2時間30分で終わり、午前2時45分には空襲警報は解除されました。しかし、「町がごうごうと鳴るんです。呉の町は火だけ、火だけだったのです。その時のお月さまが真っ赤だったのが、未だに心の中に焼き付いています（当時国民学校4年生の植田栄子さんの記憶）」というように、警報解除後も呉市街は明け方まで燃え続け、最初に書いたような大きな被害を出したのです。

この翌日、7月3日の新聞報道の内容です。

「中国軍管区司令部呉鎮守府発表～2時間30分にわたり約80機のB29は雲上より爆撃、呉市内及び広地区に相当の被害ありたるも、市民は士気極めて旺盛、消火に従事し概ね5時鎮火せり。海軍施設に多少の被害ありたるも作戦実施に何ら支障なし」

「7月2日の朝、市民たちの顔はみな明るい。杖で歩く負傷者たちさえ朗らかさを失っておらず、これが自分の町の焼け跡に立っている人とは思えないほどだ。誰の顔にも重責を果たし、力一杯戦い抜いた者の持つ満足感があふれているのだ」

新聞が空襲による被害を正しく伝えていません。約80機というB29は実際にはその倍近い数(152機)でした。海軍施設の被害は甚大でした。家を焼かれ家族を失った呉市民の姿がこのようなものだったという証言を、私は読んだことがありません。しかし、戦争を継続していくために、国民に本当のことを知らせなかったのです。国民が真実を知らされたのは、これから約1ヶ月後、2つの原子爆弾が日本に落とされ、日本が敗戦を受け入れた8月15日以降でした。真実が報道されない。今、ロシア国内でも同じことが行われています。



図書室の「平和」に関する図書コーナー

明日7月1日は呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日です。呉空襲について考えるということは、平和な世界をどう守っていくかを考えていくことです。

梅雨末期の大雨に備える

今日で6月が終わり明日から7月です。今年の梅雨もいよいよ終わりが近づいてきました。しかし、これからの時期が一番危ないということはみんな分かっていますね。昨日くらいから、ニュースで「週末にかけて大雨と蒸し暑さに注意。梅雨末期のような降り方になるおそれ」といった注意喚起がくり返されています。

6月中旬くらいまでは、沖縄や奄美地方に停滞していた梅雨前線が、6月下旬～7月上旬になると、勢力を強めてきた太平洋高気圧に押し上げられ本州に停滞し雨を降らせます。それまでに蓄積された雨の量も多いので、この時期に大きな災害が発生しやすくなるのです。

あらためて、**土砂災害携帯マニュアル**などを使って、梅雨末期の大雨に備えるようにしましょう。災害が起こらないに越したことはありませんが、備えだけはきちんとしておくことが**自分の命や自分の身近な人の命を守る**ことにつながります。(写真は2年生が社会科で仁方地域の地形などをふまえた防災調べ学習をした授業の様子です)



◆令和5年度熱中症対策標語コンテストで、2年生の王さんの標語が優秀賞に選ばれました。これからが夏本番。熱中症対策には、早め早めの水分補給が大切です！

喉乾く 求めるサイン その前に

